

成分名	メチルエチルケトン
英 名	Methyl Ethyl Ketone
CAS No.	78-93-3
収載公定書	薬添規
A TOXNET DATABASE への リンク	https://chem.nlm.nih.gov/chemidplus/rn/78-93-3

投与経路	用途
一般外用剤	溶剤、溶解剤、溶解補助剤
舌下適用	

以下については該当文献なし

1. 単回投与毒性
2. 反復投与毒性
3. 遺伝毒性
4. 癌原性
5. 生殖発生毒性
6. 局所刺激性

7. その他の毒性

7-1 吸入毒性

メチルエチルケトン (MEK) は、広く用いられている工業用溶媒であり、ヒトに対して相当な曝露がみられている。MEK がげっ歯類に発生毒性を引き起こす可能性を評価する目的で、妊娠 6～15 日目の Swiss (CD-1) マウスに、0、400、1000 または 3000 ppm の MEK 蒸気を 7 時間/日曝露させる投与群とした。各群の内訳は、それぞれ雌約 30 匹とした。3000 ppm 群で、投与に関連した統計的に有意な相対肝重量の増大がわずかにみられたものの、上記の濃度での MEK 曝露では、妊娠マウスに明らかな母体毒性はみられなかった。3000ppm 群では、平均胎児重量の低下という形の軽度の発生毒性が認められた。対照群値からの相対的な低下は、雌雄いずれも同じであったが、この低下は雄に対してのみに統計的有意であった。MEK に曝露したマウスの中では、胎児吸収の発生数の増大も吸収を伴う同腹仔数の増大もみられなかった。いずれの単体奇形発生率の有意な増大もみられなかったが、同時に実施した対照群にも同時期の諸試験の対照にも観察されなかった数種類の奇形 (口蓋裂、肋骨癒合、椎骨欠損および合指症) が、低い発生率で認められた。このほか、発達変異である胸椎のずれの発生率増大に対する有意傾向がみられた。以上をまとめると、本試験で用いられた吸入濃度では、妊娠 Swiss (CD-1) マウスは、MEK の毒性作用に対して比較的低い感受性を示した。ただし、その出産仔は、3000ppm の曝露濃度で発生毒性の有意

な徴候を示した。¹⁾(Schwetz BA, Mast TJ, Weigel RJ, Dill JA, Morrissey RE. 1991)

8. ヒトにおける知見

引用文献

- 1) Fundam Appl Toxicol. 1991 May; 16(4): 742-8.

PEC JAPAN SAFETY DATA